

「持続可能な地域をつくる 日本の環境首都コンテスト」勉強会

ドイツで1990年代に開催された「環境首都コンテスト」をモデルに、
日本でも「環境首都」誕生を目標とするコンテストが、2001年から行われています。



日本の環境首都コンテストの趣旨・概要については裏面をご覧ください。

こんな人におすすめ

- ・自分の住むまち・勤務するまちをより持続可能なもの
にしたいと思われている方
- ・ボランティア活動を通じて、環境のまちづくりに貢献し
たいと思っている方
- ・勤める自治体の環境施策を客観的に把握したいと思
われている職員の方
- ・自治体の環境施策を研究されている方
- ・自治体への就職を希望されている方

【プログラム】

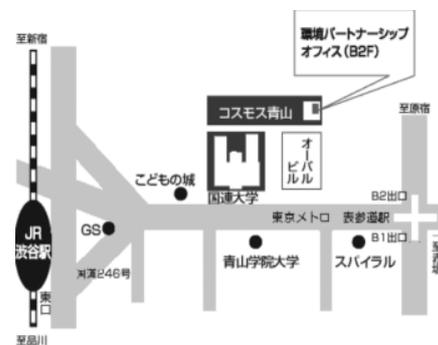
日本の環境首都コンテストが目指すもの
山田 岳(環境首都コンテスト全国ネットワーク)
総合第9位板橋区の取り組み
野島俊昭 氏(板橋区環境保全課 課長)
08年度ボランティアスタッフから一言
質疑応答と意見交換(ワークショップ形式)

- 【日時】 2008年8月20日(木) 18:30 ~ 20:30
【場所】 環境パートナーシップ会議室(東京・青山)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F
TEL: 03-3406-5180 / FAX: 03-3406-5064
地下鉄表参道駅下車徒歩約5分、渋谷駅徒歩約10分
- 【参加費】 500円
【定員】 50名
【申込】 FoE Japanホームページ専用フォームよりお申し込みください。
http://www.foejapan.org/event/event_form.html
【締切】 8月19日(水)

- 【主催】 環境首都コンテスト全国ネットワーク
【運営】 FoE Japan、環境エネルギー政策研究所、かながわ環境市民ネットワーク
【問合せ】 国際環境NGO FoE Japan
〒171-0014 東京都豊島区池袋3-30-8 みらい館大明1F
Tel: 03-6907-7217 Fax: 03-6907-7219
E-mail: ecocity@foejapan.org



環境首都コンテストの先進事例をわかりやすくまとめた書籍『環境首都コンテスト～地域から日本を変える7つの提案』学芸出版から好評発売中(税込み2310円)。当日は、割引価格でお求めいただけます。



「日本の環境首都コンテストの趣旨」

国連の行動計画「アジェンダ 21」の呼びかけに応え、自治体間の切磋琢磨によって持続可能な地域社会実現のための施策を加速させ、他の自治体のモデルとなる「環境首都」を日本に誕生させることにあります。ドイツの環境首都コンテストをモデルにしています。

ここでの「持続可能な地域社会」は、「低炭素社会」「循環型社会」といった環境分野に限定されるものではなく、「環境と経済と社会的公正とのバランス」によって成り立つものです。

コンテストの内容

「日本の環境首都コンテスト」は、自治体の持続可能なまちづくりのための施策について具体的に質問しています。質問内容は、環境基本条例・基本計画、環境マネジメントシステム、環境情報の開示、自治体内部の環境基本行動、自治体との交流、職員研修・行政の総合化と予算編成、住民の人材育成と行政との協働、環境・まちづくり学習、自然環境の保全・回復、健全な水循環、風土を活かした風景づくり、持続可能なまちづくりと一体化した交通政策、地球温暖化防止・エネルギー政策、ごみの減量化、環境に配慮した産業育成の 15 分野にわたります。

結果はすべての参加自治体に連絡し、総合ポイントの高い自治体や先進的な取り組みを行っている自治体については公表し、表彰しています。

コンテストで得られた情報は、報告書・先進事例集のかたちで、すべての参加自治体に還元しています。

参加する自治体のメリット

コンテストの結果は、参加自治体の最高点または平均点と比較できることから、参加自治体は自己の施策・政策を第三者的に評価することができます。

報告書・先進事例集によって、他の自治体の動向や先進事例のデータを入手することができます。

専門性を持ったスタッフから、施策や政策についてのカウンセリングやアドバイスを受けることができます。

連続して参加している自治体の環境施策が向上しています。

第 4 回から第 8 回まで連続して参加している 37 自治体の平均点を第 6 回と第 8 回で比較すると、300 ポイントから 325 ポイントと 25 ポイント増加しています。第 7 回には、質問票の大幅な見直しと、採点基準・配点の変更があったにもかかわらず、連続参加自治体の平均点は下がっていません。

ボランティアのメリット

過去の先進事例を学ぶことによって、自治体環境施策を総合的に知ることができます。

コンテストのヒアリング作業では、自治体の担当者と直接意見交換ができます。現場を視察することもできます。

全国の環境 N G O と、自治体の環境施策について意見交換できます。

環境首都コンテストでインターン研修を行い、自治体への就職活動に活かした人が何人もいます。

スケジュール

< 2009 年 >

- 8 月 参加自治体募集と質問票の発送、ボランティア募集
- 9 月 自治体での回答作業、ボランティアは質問内容の勉強会（15 日 18:30 から EPO で）、環境首都コンテスト交流会（関東）の開催
- 11 月 自治体から回答の提出、ボランティアによる簡易回答チェック
- 12 月 自治体へのヒアリング作業

< 2010 年 >

- 1 月 自治体へのヒアリング作業、自治体回答の採点
- 2 月 先進事例候補の推挙と選出、自治体採点結果の集計
- 3 月 最終集計、全参加自治体への結果報告、首位自治体での表彰式、報告書・先進事例集の作成
- 4~5 月 参加自治体への報告会と意見交換
- 5~6 月 質問票の改訂
- 7~9 月 環境首都コンテスト交流会（関東）の準備

